

海洋開発シンポジウム

特別セッション：**島しょ・離島海域の保全・開発・資源利用**

オーガナイザー：山田吉彦（東海大学海洋学部）

開催日時：第1日（6月29日）15：45-17：50

平成19年7月に施行された海洋基本法における12の基本的政策のうち、離島の保全等に関しては第26条において以下のようにうたわれ、また、平成20年3月には同基本法において策定を義務付けられた海洋基本計画が制定されています。

（離島の保全等）

国は、離島が我が国の領海及び排他的経済水域等の保全、海上交通の安全の確保、海洋資源の開発及び利用、海洋環境の保全等に重要な役割を担っていることにかんがみ、離島に関し、海岸等の保全、海上交通の安全の確保並びに海洋資源の開発及び利用のための施設の整備、周辺の海域の自然環境の保全、住民の生活基盤の整備その他の必要な措置を講ずるものとする。

本特別セッションは、海洋基本法制定以降の離島保全・離島振興に学術・技術的な側面から貢献することを目的に、平成21、22年度の2年間の予定で開催します。横浜開催となる初年度は、海洋基本法での位置づけなどを学際的な視点から俯瞰しつつ、東京都島しょ・離島域の特性、離島の現状、離島の抱える問題、技術的課題について、2つの基調講演、3つの話題提供を頂いた後、パネル討議を実施します。多くの方のご参加と活発な討議をお願いいたします。

（1）基調講演1：海洋基本法制定と離島問題 山田吉彦（東海大学） 20分

ようやく海洋国家として海洋管理を行うための法秩序が構築されようとしている今、日本の海洋管理の始動方向を見極める上で、現在の日本の周辺海域における問題点を検証する必要性を報告する。特に、海洋安全保障体制では、多くの解決すべき課題があり、国境に対する概念を変える時期にきており、国境は自国の権益を確保するための壁ではなく、隣国との協力関係において国民の利益を最大に引き出すための接点ととらえる視点が重要である。また、国際交流、観光、資源の共同開発など、離島問題への取り組みは、海洋管理の重点事項として不可欠であり、今後、関連分野での研究進展がより重要となる。

（2）基調講演2：小笠原の民俗・文化（仮題）（口頭発表）

ダニエル・ロング（首都大学東京） 20分

小笠原諸島の言語と文化などを中心話題とし、滞在しての島までの体験なども交えながら、土木と異なる視点で離島の現況を報告する。

（3）小笠原村の振興に向けて（口頭発表）

渋谷正昭（小笠原村役場） 15分

小笠原村は東京から南に 1000 キロの父島を中心に大小 32 余りの島々からなる。まず小笠原の自然や特異な歴史を紹介し、それらに基づく小笠原村のおかれている現状と今後の振興に向けた考えを述べるとともに、日本の土木技術に期待したいこと（小笠原諸島周辺海域における海底資源開発と前線基地としての父島・母島、空港建設に向けての栈橋構造、世界遺産指定に向けた自然配慮工法、津波対策など）を述べる。

（4）観光がつくる東京島嶼・離島の産業経済（仮題）（口頭発表）

大島正敬（日本観光協会） 15分

準備中です。

（5）東京都島嶼・離島沿岸域における生物変化と土木技術への期待（仮題）（口頭発表）

小泉正行（東京都島しょ農林水産総合センター） 15分

小笠原・大島・八丈島等の離島勤務を通じ、離島の水産生物の現状把握と資源増殖策を検討してきた。24年間、現場で海を見、肌で感じたこと、課題として以下のような点があげられる。

- ①離島振興に必要な港湾土木技術と環境保全との関わりに対する基本的考えと修復策
- ②黒潮流路の変化に伴う岩礁性生物の変化と土木技術に将来を期待する課題
- ③離島における産業上、有用な資源の変化（例えば八丈島のフクトコブシの衰退）と管理上の考え

これらをふまえ、水産技術の立場から、生物生息環境の僅かな変化が生物の生息量を大きく支配することやその改善策、資源管理が重要であることを、現象面を中心に紹介する。

（6）パネル討議（上記講演・話題提供の質疑も含む） 40分 山田吉彦

海洋開発委員会 コーディネーター
五明美智男・木村克俊・柵瀬信夫